

平成29年度 【就労・日中】支援部会報告

部会テーマ【地域生活を支える日中事業所の役割】

構 成 員【就労移行支援事業所・就労継続支援 A 型事業所・就労継続支援 B 型事業所・生活介護】

部 会 開 催	○世話役会議（7/ 28） ●第1回部会（9/11） 参加者 25名 ・昨年度の振り返り、今年度のテーマと年間計画 ・テーマ：地域とのかかわりをつくるために
	○世話役会議（9/28） ●第2回部会（1/31） 参加者 24名 ・前回の部会の内容の確認 ・テーマ：利用者にとっての「日中事業所」の役割とは？
	○世話役会議（1/26） ●第3回部会（3/12） 参加者 名 ・前回の部会の内容の確認 ・テーマ：利用者にとっての「日中事業所」の役割とは？パート2 ー利用者の経験・体験をひろげるためのとりくみ・工夫ー
テ マ に つ い て 深 め た 点	・ 地域とのかかわりづくり 各事業所で、地域へのアプローチやつながりを大切に考えている。 横のつながりが、障害福祉に限らず民生委員や自治会などにも広がっている。 ただし、つながりの実感が薄い現状、障がい者の受け入れに関する総論賛成、 各論反対は地域に残っている。 ・ 利用者にとっての「日中事業所」の役割 各事業所が利用者にとって「社会性をはぐくむ場」「自己肯定感をはぐくむ場」 「経験・体験をつむ場」「健康管理の場」として機能をもち、試行錯誤・努力して いる。
部 会 の ま と め	・ 事業所の建物構造の脆弱さや障害に対応できる空間の確保 ・ 健康状態の把握と予防 ・ 看護師配置 ・ 災害時の重度者への支援体制(建物の耐震も不安) ・ 介護保険への移行の課題 ・ 地域へ障がい者の実態を伝える、理解を広めるための取り組み ・ 地域の一員となり、協力関係を構築すること。 ・ 利用者対応について、自事業所で抱え込まず、他機関との役割分担・連携を進める 必要性

平成 29 年度 【入所・グループホーム】支援部会報告

部会テーマ【 地域生活を豊かなものに 】

構 成 員【 入所施設・グループホーム 】

部 会 開 催	○世話役会議（6/14） ●<u>第1回部会（7/26）</u> 参加者 10名 ・昨年度の振り返り ・今年度の部会テーマと年間計画の検討
	○世話役会議（1/19） ●<u>第2回部会（2/28）</u> 参加者 12名 ・研修「地域生活を豊かなものに－暮らしの支援とネットワークづくり－」 講師 西沢 富子氏（社会福祉法人 さつき福祉会） ・グループワーク
	○世話役会議（1/19） ●<u>第3回部会（3/7）</u> 参加者 25名 ・世話人研修会「豊かな食生活をめざして」 講師 橋本 奈里紗氏（クリエイトしき 管理栄養士） ・交流会
テ ー マ に つ い て 深 め た 点	会議・研修を通して ・GH 担当職員の役割について GH 制度動向の理解 本人主体の支援のあり方 多様な障害状況の利用者への対応 （利用者状況の世話人との情報共有、日中事業所等との連絡・調整のあり方） ・高齢化・重度化に対応する支援について 通院支援について（通院支援と、診察への支援など家族に代わる役割） 利用者の健康管理の課題（日常の状況把握と対応、緊急時の予測と対応方法） 高齢者の暮らしの場や選択肢について
部 会 の ま と め	・多様な利用者に対応できる支援体制が必要 GH の量の不足と条件改善 利用者に合った多様な GH と支援体制の検討 課題が生じた時の日中事業所等との連絡会議 世話人確保と養成 <地域支援拠点の課題> ・高齢化・重度化に伴う支援体制が必要 地域の医療機関との連携体制（日常的な健康状況の把握と相談） 高齢化に対応する暮らしの場の選択肢<地域支援拠点の課題>

平成 29 年度 【地域生活】 支援部会報告

部会テーマ【地域生活を豊かなものに】

構成員【居宅介護事業所】

部会開催	○世話役会議（7/18・8/10・8/23） ●第1回部会（8/24） 参加者 24名 ・自立支援協議会、地域生活支援部会の活動報告 ・利用者にとって地域での豊かな生活とは何かを考える ・「地域生活の課題と豊かな生活の実現に必要な事」アンケート
	○世話役会議（11/21・12/1） ●第2回部会（12/12） 参加者 8名 ・訪問系以外の障害者支援サービスの情報共有 ・豊かな生活を実現するために必要な事や社会資源について意見交換
	○世話役会議（1/25） ●第3回部会（2/13） 参加者 15名 ・研修 「成年後見制度について」 ・講師 那和祥史先生（まほら司法書士事務所、司法書士）
テーマについて深めた点	・地域で豊かに暮らすという事は他者とつながり、助け合い楽しい時間を過ごし笑顔になる事。 ・地域での課題 ① 日中の生活の在り方 - 土日の移動支援の集中 - 放課後デイサービスに行けなくなった年齢では日中生活支援からの帰宅が早く、介護者が勤務の為、夕方の移動支援の依頼があるが対応しきれない。 ② 介護者の高齢化 - 金銭管理や契約等が困難になってくる - 介護者の病気や入院
部会のまとめ	・既存公的施設「八尾市立 障害者総合福祉センター」の有効活用 今以上、開放的にまた周知していく ・ヘルパーの人員不足が障害者の社会参加の妨げにならないよう就労継続支援等の土日の開業や土日に集まれるクラブ活動のような場所を考える

平成 29 年度 障害児支援部会報告

部会テーマ【地域生活を豊かなものに】

構 成 員【八尾保健所、支援学校、児童発達支援センター、児童発達支援事業所、

放課後等デイサービス、居宅介護事業所、日中一時支援事業所、短期入所 】

部会開催	○世話役会議（9/15） ●第1回会議（9/25） 参加者 19 名 ・前年度本会議、サブ協議会等の報告 ・今年度のテーマの確認	
	本部会	放課後デイ部会
	○世話役会議（11/24） ●第2回会議（12/18） 参加者 8 名 ・本会議（提出意見）の報告 ・やおっこファイルの今後の活用	○世話役会議（12/18） ●第3回会議（1/15） 参加者 29 名 ・第2回、本会議（提出意見）の報告 ・グループワーク ワークシートを使い、日々の支援を振り返り、支援の向上に向け意見交換
○世話役会議（1/10） ●第4回会議（2/26） 参加者 41 名 ・研修「発達障がい児の理解と対応について～思春期支援を中心に～」 講師 上田 裕子氏（発達障がい支援センターPAL）		
テーマについて深めた点	・短期入所への希望 本人・家族状況から、希望増。以前より低年齢化の傾向がある。 ・医療的ケア児の支援について 対象児数が増えている。在宅でのケアや通学・利用時の送迎・支援体制の整備が不十分な状況 ・ファイルの定着に向けて 福祉以外に教育・保育等、他分野での周知が求められる。他の手帳（成長ブックなど）との整理も必要。	・支援の上で大事にしている事 障害特性の対応、子どもの言動への理解 職員間での情報共有 様子変化への気付き、丁寧な関わり 自立に向けた支援の視点 ・気になっているができていない領域 活動内容の工夫、充実 他機関・事業所との連携 支援計画や記録の充実 職員確保、職員研修
部会のまとめ	・身近な地域で利用できる障害児短期入所が必要 ・医療的ケアが必要な子どもが地域で安心して生活できる支援の拡充	・事業所間の連携を行い、支援の向上に向けた情報共有や検討が必要
	・「気づき期」への丁寧な支援のための行政機関との連携 ・児童期から青年期への経年的支援ができる仕組み ・やおっこファイルの周知・活用に向け、他分野（教育・保育）との取り組みが必要	

平成29年度 【精神保健】支援部会報告

部会テーマ【地域生活を豊かなものに】

構成員【精神科病院・精神科クリニック・訪問看護ステーション・就労継続支援事業所・八尾保健所・

八尾市障害福祉課・八尾市社会福祉協議会・相談支援事業所 等精神保健に関わる機関】

部会開催	○世話役会議（4/18・5/8） ●第1回部会（6/7） 参加者 42名 「まずはお互いを知るところから！～交流・つながりコトハジメ」というテーマで新たに参加された機関も含め、改めて各機関の現状と課題についてグループワークを行った。
	○世話役会議（7/7・8/7・8/23・10/2） ●第2回部会（10/11） 参加者 44名 第1回目の部会を踏まえ、テーマを「統合失調症・躁うつ病・うつ病・人格障害・発達障害・アルコール依存症」と具体化し、疾患別でグループワークを行った。今回から作業所の授産品のクッキーを用意し話しやすい雰囲気作りにも工夫した。
	○世話役会議（11/29・1/10・2/7） ●第3回部会（1/17） 参加者 22名 ・今年度最後の部会として、「地域生活を豊かなものに～こんな事業所あったらいいな」というテーマでグループワークを行った。実際に不足している事業所や制度について話し合い、枠に囚われず、「あったらいいな」と感じる資源について共有を行った。
テーマについて深めた点	・年間を通して話の内容を少しずつ具体化し、身近な事として感じてもらえるように心がけた。 ・前年度と比較し、多数の機関に声をかけ、より地域の資源を知っていただき、共有し合える関係性作りを行った。 ・地域移行の取り組みを強化し、病院茶話会に他機関の方が参加して、現状を知っていただくことができた。 ・部会の一環として茶話会や勉強会、作業所見学を行い、前年度の課題であった「発達障害の理解」「社会資源の開発」「精神科長期入院患者への支援」へアプローチを行い、様々な機関がそれぞれに対し問題意識を持つことができた。
部会のまとめ	・高齢分野支援者との連携強化や制度体制の改善が必要 - 対象者の高齢化により、介護保険への移行でサービス量の減少や自己負担が発生することで適切な支援を受けることが出来ない事例が上がっている。 ・精神科長期入院患者への支援の強化 ・社会資源の不足（住居・居宅介護事業所・相談支援事業所・「発達障害や高次脳機能障害等、専門的な障害」に対応する機関や理解促進の為の研修） ・母子家庭や家族同居世帯等、どこにも該当しない「間の支援」の不足と難しさ。